

## 本時のねらい

交通事故の発生要因や危険回避方法について考え、互いに共有する。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

タブレット端末を使って、実際の映像を見せることにより、交通事故の危険性を実際に近い感覚で理解させ、その危険予測や回避方法について友達と意見を共有する。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末（iPad）
- ・電子黒板
- ・ミライシード「ムーブノート」
- ・JAF「実写版」危険予測・事故回避トレーニング
- ・Keynote

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の交通事故負傷者が自転車運転中に多く発生していることを知る。</li> <li>○交通事故の発生要因と自動車の特性について、箇条書きにしてノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板を使い、Keynote のスライドで交通事故負傷者の内訳のグラフを見せる。</li> </ul>
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電子黒板に危険予測トレーニングの動画を流し、視聴する。</li> <li>○ミライシードのムーブノートで課題に取り組む。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「危険予測」をカードに書き出し、「広場」に提出する。</li> <li>・「広場」に集まった全員の意見を共有し、「人的要因」と「環境要因」に分ける。</li> <li>・提出した友達のカードを見ながら、「回避方法」をコメントに書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板で危険予測トレーニングの動画を全体で視聴することで、話し合う題材のイメージを共有する。</li> <li>・友達の意見に対して、回避方法をみんなで書きこんでいくことによって、一人ひとりの意見や考えを反映できるようにする。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何枚かの意見を全体で共有する。</li> <li>・学習ノートで今日の単元の問題を解いて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険回避について考えたことを共有し、キーワードのテキスト分析を行い、多かったキーワードから、もう一度危険予測の必要性を確認させる。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：危険予測トレーニングの動画を見ている場面



写真 2：人的要因からと環境要因の面から危険を予測しカードに記入している様子（ムーブノート）



写真 3：ミライシードの「みんなの広場」で意見交流し、友達のカードに対して回避方法をコメントしている場面

## 児童生徒の反応や変容

シミュレーション動画を見ることによって、より想像しやすく、現実味を感じることができていた様子だった。また、「どんな危険があるか」を考え、友達と交流することで、前向きに取り組む姿が見られた。学習カードで「この時はどうする？」と発問していたが、ミライシードでクラス全員の意見をリアルタイムで共有することにより、短時間でたくさんの意見に触れることができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

危険予測トレーニングのサイトはたくさんあるので、生徒たちに見せるだけでなく、いろんな場面の話し合いをすることが、効果的であると感じた。自分と友達の考えを意見交換し、交流することで学習内容への理解を深めることができた。時間に余裕があれば校区内の危険な場所などを地図で探し、共有する活動も効果的だと考える。